

R 8 年度 前期学校評価アンケート結果

平素は、本校教育にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。さて、7月に実施いたしました、前期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。今年度も、「児童」「保護者・地域」「教職員」を対象にアンケートを実施しました。このアンケート結果は、特徴的な項目をピックアップして分析したものを掲載しております。

【生活面】児童・保護者 実現度ベスト5

1位から4位までは児童・保護者とも同じ項目が入っています。



児 童			
R 8			R7後期
1位	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校したり、地域で過ごしたりしていますか。	97.2%	97.7%
2位	友達に親切にしていますか。	96.3%	97.0%
3位	相手の気持ちを考えて「ありがとう」や「ごめんなさい」など、自分の気持ちを伝えられていますか。	94.1%	93.3%
4位	やってはいけないことは、しないようにしていますか。	93.5%	92.4%
4位	「いじめをしない」「いじめを見のがさない」ができていますか。	93.5%	92.7%

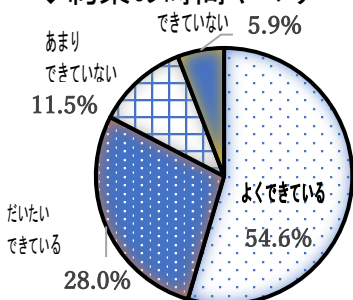
保 護 者			
R 8			R7後期
1位	お子たちがやってはいけないことは、しないように働きかけていますか。	97.9%	98.8%
2位	お子たちが友達に対して親切な対応ができるように声をかけていますか。	97.5%	97.5%
3位	お子たちが相手の気持ちを考えて、礼儀正しい行動をすることができるように働きかけていますか。	94.5%	93.0%
4位	お子たちが安全に気を付けて登下校したり、放課後に地域で過ごせるように働きかけたりしていますか。	93.8%	92.2%
5位	お子たちが「おはようございます」「こんにちは」など、自分から挨拶をするように働きかけていますか。	91.6%	89.3%

生活面での実現度が高い項目を上位から順に5つ挙げると、上記のようになりました。令和7年度（後期）の結果と比較しても、同じ項目が上位に挙がっており、児童・保護者ともにこれらの項目に対する意識が高いことがうかがえます。特に、安全や規範意識、親切や思いやりに関する項目の実現度が高いことが明らかになりました。

安全面に関しては、学校生活での安全指導、ご家庭での声掛け、見守り隊やPTAやスクールガードリーダーの方々による見守り活動など、子どもたちに日々働きかけられていることが、子どもたちの意識の高まりにつながっていると考えられます。一方、児童の「挨拶」に関しては93.3%の実現度で、令和7年度（後期）の実現度90.8%からの高まりが大きくなっているものの、見守り隊や地域の方からは、「学校の外では挨拶が返ってこない。」というご意見がありました。学校で、児童会の「あいさつ運動」を中心に挨拶への意識を高めていることが、学校外でも実践できるように引き続き取り組んでいきます。

今後も家庭や地域と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思います。

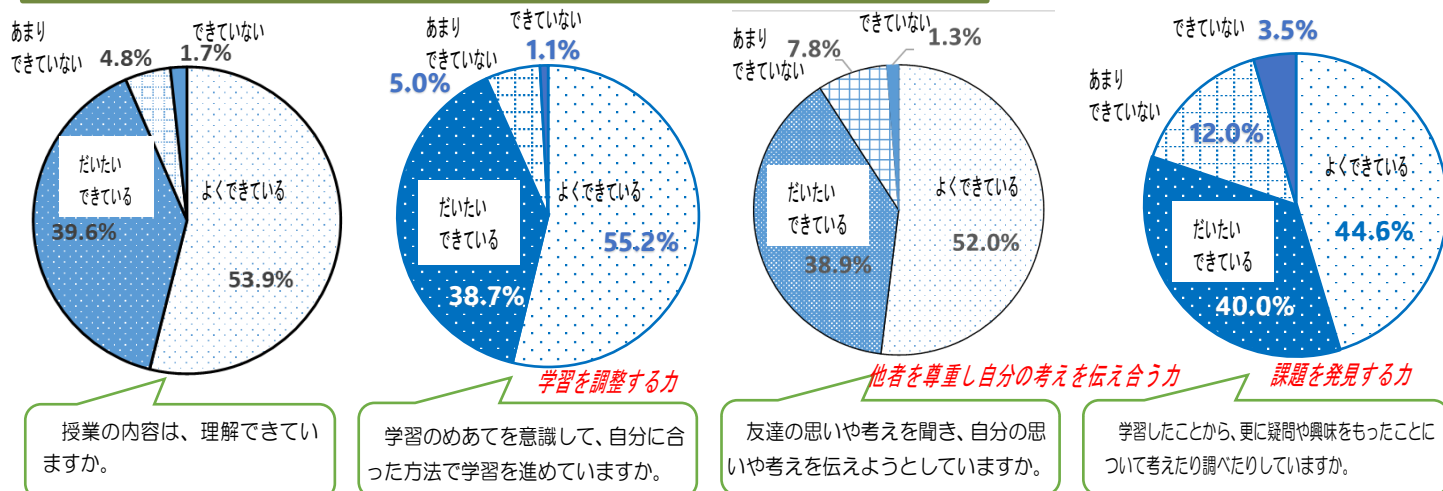
◆ 約束の時間やマナーを守って、スマートフォン・タブレット・ゲーム機などを使っていますか。 ◆



生活面での実現度が最も低かったのが、「スマホやタブレット・ゲームの利用」に関する項目でした。長時間の使用や遅い時刻からの使用により、生活リズムが乱れたり体調を崩しやすくなったりするなどの課題も見られます。また、SNSや動画アプリ上でのトラブルもあります。スマホやタブレット、ゲーム機などには良さや楽しさも多くありますが、怖さや問題も潜んでいることを子どもたちに具体的に知らせる必要があります。ご家庭でも折にふれ、話していただけたらと思います。

今後も、学校では情報モラルの学習を繰り返し行うとともに、時間や約束を守る意識を高めるための働きかけを継続し、より良い生活習慣の定着を図っていきます。

【学習面】児童 実現度（本校の研究に関する項目）



今年度も嵯峨野小学校では、「**学習を調整する力**」・「**他者を尊重し、自分の考えを伝え合う力**」・「**課題を発見する力**」の育成に重点を置き、児童の資質・能力の向上を目指して取り組んでいます。教職員は、様々な教育活動の場で、これらの力を育成するための工夫を意図的に行ったり、児童一人一人に応じた声掛けや支援をしたりしています。

今回の児童アンケートの結果を見ると、ほとんどの項目で肯定的な回答が90%以上を占めており、児童が自分に合った方法で学習を進め、友達と交流しながら学びを広げたり深めたりすることに取り組んでいる様子がうかがえました。しかし、「学習したことから、更に疑問や興味をもったことについて考えたり調べたりしていますか」という項目では、肯定的な回答が昨年度より少し高かったものの、85%程にとどまっていました。身の回りの事象や学習内容に対して疑問をもち、「何が分かっていないのか」「何を明らかにすべきか」を自分なりに見いだす力を高めるためにも、子どもたちが自分たちで学習を進める時間や、学びをふり返り次の問いを生み出す時間を設定していきたいと考えています。

昨年度からは算数科において重点単元を設定し、児童一人一人が自分に合った進め方や学び方を通して、自己の学びを計画的に進めていく「自由進度学習」にも取り組んでいます。そして、今年度は他教科でもそのような学習を取り入れています。子どもたちが自己の課題と向き合い、様々な学び方や多角的な考え方を通して計画的に課題解決へ向かえる力を身に付けられるよう、今後も教育活動を展開していきます。

学校評価を終えて

今回の学校評価では、90%を超える保護者の方のご回答をいただいたなか、児童・保護者・地域ともどのアンケート項目においても肯定的な回答が多く得られました。このような結果は、学校の取組に保護者や地域のご理解とご協力をいただき、同じ方向を向いて子どもたちを支えることができているからだと考えられます。

アンケートの記述欄には、困り事や相談があった時に学年担当の誰にでも伝えられることで迅速に対応できることや、学校生活を通して社会性や自主性が育ってきているとのご意見がありました。一方で、「学年担当制では誰に相談すればよいかわからない。」や、「スマホのルールが守れない。」といったご意見が少数ながら寄せられました。また、環境面では、綺麗な教室や校舎を維持することや、古くなった場所の整備についてご意見をいただきました。

多様性の包摂の重要性が指摘され、SNS等の負の側面が懸念される社会状況の下、子どもたちが他者と共に生き、学び合い、社会的自立を果たすことができるように、私たち大人も子どもたちに寄り添いながら、思考を柔軟に変化させて対応していく必要があります。今後も、子どもたちをはじめ、保護者や地域の皆様が幸せや豊かさを感じられる嵯峨野小学校を目指して、歩みを進めてまいります。